

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1770101721		
法人名	有限会社 杜の郷		
事業所名	ぐるーぷほーむ杜の郷本多（3階 さくらユニット）		
所在地	石川県金沢市本多町3丁目11番23号		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	（有）エイワイエイ研究所		
所在地	金沢市無量寺5丁目45-2 サンライズⅢ106号		
訪問調査日	1/25/2022		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

金沢市の中心部に位置し、兼六園や石浦神社をはじめ桜並木でもある犀川などを日常的にドライブや散歩できることもあり、利用者は金沢の名所を身近に感じながらホームで生活しています。グループホームの敷地内は地域の一時避難所やゴミステーションとして提供しているほか、別館会議室は地域の絵手紙教室等に開放しており、地域の一員として協力関係を築いています。職員はほぼ全員が介護福祉士であり、認知症ケアの専門職であるという意識を持ちながら利用者本位の個別ケアに取り組んでいます。この2年のコロナ禍で利用者の生活状況が一変し、制限が多い中で職員も感染予防対策等で日々緊張が続いていますが、そんな中でも出来る限り利用者の要望に応えようと感染状況によって面会方法を考慮したり、近隣へのドライブや散歩で気分転換が図れるよう、職員は丸となってコロナ禍での利用者の生活を支援しています。入居相談の見学者から、「入居者やスタッフの笑顔が多くて雰囲気が良い」と言われることがよくあり、職員のモチベーションアップにも繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)]

己	自	部	外	項目		自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>		<p>フロアの目に付くところに理念が掲示しており、毎月の職員会議で復唱し再確認している。また、理念に基づいて月間目標を掲げており、職員は目標達成を意識しながら実践に繋げている。</p>				
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>		<p>事業所は町会に加入しており、回覧板やゴミ当番を行っている。また、事業所別館の会議室は地域の会合や絵手紙教室等に開放しており、駐車場の一角は地域のゴミステーションとして提供し利用されている。</p>				
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>		<p>コロナの影響で、中学生の職場体験や訪問ボランティア等の受け入れは一切出来なかったが、代表者は地域の認知症カフェにおいて講演を行い、認知症への理解や支援方法をアドバイスしている。</p>				
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>2ヶ月に一度の運営推進会議はコロナのため殆どが紙面での報告になっているが、感染状況が落ち着いているときは対面での会議を開催している。事業所の活動内容、利用者の状況やサービスの実際等を報告し、出席者から率直な意見をいただき話し合いながらサービスの向上に活かしている。</p>				
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>		<p>代表者は、金沢市グループホーム部会の部会長のほか様々な役員を務めている。生活保護をはじめ、市の担当者とは日頃から密に連絡や相談をしており、協力関係の構築に努めている。</p>				
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		<p>身体拘束適正化検討委員会を設置し、年4回を目安に職員会議の中で身体拘束をしないケアについて職員全員が正しく理解している。日々のケアが身体拘束に当たらないか、振り返りながら取り組んでいる。</p>				
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>管理者や職員のほぼ全員がこれまでに高齢者虐待防止研修を受講している。不適切な言葉遣いやケアも虐待に繋がることを理解しており、職員同士声を掛けながら未然に防ぐよう努めている。</p>				

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は職員会議等で、実際に日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している利用者を事例として学ぶ機会がある。成年後見制度については、利用者の状況に応じて家族等と話し合い、制度が活用できるよう支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は期間をかけて重要事項等の説明を行っており、利用者や家族の不安や疑問にその都度答えながら理解と納得を図っている。制度改正等で契約書の改定をする際は、事前に理由を説明し理解を得ている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、コロナで家族等の訪問ができないため投書はなかった。利用者とは日頃からコミュニケーションを取り、家族とも電話等で話し合いができていたので、頂いた意見や要望は運営推進会議や職員会議等で報告し、それらを運営に反映させている。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日常的に職員の意見や提案を聞いており運営に反映させている。毎月の職員会議や主任会議でも率直な意見交換が出来るほか、代表者は年に1回職員の個人面談を行っており、全職員が意見や提案ができる機会を作っている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握し、個々の努力や実績等を評価して、それらに見合った賞与や資格手当を支給している。また、季節休暇や有給休暇は希望通り取得できており、リフレッシュしながら働ける職場環境の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまでは必要な研修は順次受講出来ていたが、コロナの影響で殆ど外部の研修は受講できなかった。そんな中でも、新型コロナウイルスについての外部研修やオンライン研修については出来るだけ受講し、職員会議等で内容を共有している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、同業者と交流する機会はなかった。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人に会いに行き、困っていることや不安なこと、要望等を時間をかけて聞いている。本人の思いを受け止め共感しながら、安心かつ信頼を得るよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた段階から時間をかけて家族等から話を聞いている。困っていることや不安なこと、要望等を真摯な態度で傾聴し、その都度質問にも答えながら信頼関係を築くよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コロナの影響で限りはあるが、サービスを導入する段階で本人にホームを訪れていただき、グループホームの雰囲気味わえるようにしている。その時の様子も含めて、今必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることに目を向けて掃除・洗濯・調理などで力を発揮してもらい、それを職員がサポートしながら暮らしを共にする者として協力関係を築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から電話、LINE、面会等で情報交換を行っており、職員と家族が協力し合って本人を支えていく関係を築いている。日常の様子動画をLINEで家族に送ることもあり、家族との絆を大切にしながら支援している。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、家族以外の面会、外出ができず、以前あった交流もできなくなった。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格や関係性を把握し、各利用者が居心地よく過ごせるよう適宜職員が間に入り支援に努めている。		

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、新しい入所先の関係者に本人の状況やケアの工夫等の情報を伝え、環境が変わっても本人が安心して生活できるよう連携を図っている。家族から相談があれば適宜支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とゆっくり関わりながら、一人一人の思いや要望の把握に努めている。自己表現が困難な場合は、本人の表情、言動から思いを汲み取り、職員間で情報を共有し意向を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所日に本人や家族からこれまでの暮らし方などを聞き取るようにしている。入所後も本人との会話の中から生活歴等を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを尊重し、起床時間や食事時間などは本人の希望に合わせて対応している。日々のバイタルや言動等を記録に残し、心身の状態を分析しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議で利用者の状態やケアの在り方について話し合い、利用者主体の介護計画を作成している。3か月に1回のモニタリングのほか、利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた点、重要な事象については経過記録に記入しており、職員は経過記録や申し送り等で情報を共有している。記録は介護計画に沿ったものとなっており、実践から介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為、要望があっても買い物や喫茶店等への外出はできないが、本人や家族の状況に応じて受診に付き添っている。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は馴染みのスーパーや喫茶店に出かけたり、地域の大正琴教室の方に月1回先生として来ていただき利用者が習い事に参加できるよう支援していたが、現在はコロナ禍の為出来ていない。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もこれまでのかかりつけ医に受診できるよう、家族と相談し支援している。本人や家族の状況に応じて訪問診療に切り替えることも提案し、適切な医療が受けられるように支援している。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回訪問看護ステーションの看護師が訪問しており、職員は利用者の状態を報告、相談して適宜受診等に繋げている。またステーションは24時間電話対応ができ、急な訪問にも来ていただき利用者を支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、管理者等が病院を訪れて経過を確認したり、本人が出来るだけ早期に退院できるよう家族、病院関係者と協力して支援している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として「重度化した場合の対応に係る指針」を明文化しており、契約時に家族等に説明している。また重度化した場合には、家族等と懇談会を開き、今後の方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は職員が順次消防署の救急講習を受けていたが、コロナ禍の為講習に参加できていない。訪問看護師からは急変時の対処方法を指導してもらっている。		
35	(13) ○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアルがあり、訪問看護ステーションや主治医には24時間連絡できる体制となっている。また、職員の距離順連絡網があり、緊急時は近隣の職員から駆け付けられるようになっている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関やかかりつけ医とは日頃から相談や情報交換等をしており、入院が必要になったときは即対応して頂くなど連携できている。また、関連する介護老人福祉施設とは、グループホームの生活が困難になった場合の受け入れ先として支援体制が確保されている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロア1名ずつ、計3名の職員がおり、緊急時は応援要請している。また職員の距離順連絡網があり、緊急時には近距離の職員から駆け付けられる体制となっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を通じて、避難誘導、消火、通報訓練を全職員で繰り返し行い、運営推進会議等で訓練結果を報告している。ホームの駐車場は地域の一時避難所となっており、災害時の地域との協力体制を築いている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	防災マニュアルを作成し職員に周知して定期的に見直ししている。利用者の情報も含めファイルしてあり、緊急時に持ち出せるようになっている。非常時の備蓄品はリストに基づいて整備しており、定期的に点検し入れ替えをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には常に敬意を払うことを基本とし、親しみをもちながらも言葉遣いには十分気をつけ、人格やプライドを傷つけない対応をしている。トイレ介助等の際は、なるべく周囲に気づかれないようさりげなく声掛けしている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を表出できる環境を作るよう努めている。意思表示が困難な場合は、票所や反応を注意深くキャッチして自己決定できるよう働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のその日の状態を観察し、本人のリズムで過ごせるよう起床時間や食事時間を合わせている。活動への参加も、本人に都度確認し任せている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容では、本人の希望に応じれるよう家族と相談し、カットやヘアカラーをするなど本人のこだわり近づけるよう努めている。爪切りは定期的に行い、自分で切れる方には見守りしている。		
44	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物や希望があったときは献立に入れるよう取り組んでいる。また、一人一人の意欲や能力が活かせるよう、利用者と共に食事の準備、後片づけをしている。毎月の行事の際は利用者の食べたい物を聞いたり、一緒にスイーツ作りを楽しめるような計画を立てている。		
45	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスの取れたメニューを心掛け、一人一人の状態に合わせた形態で提供している。また食事や水分が進まない方には、ゼリーや栄養ドリンク等工夫して摂取できるよう支援している。		
46	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた口腔ケアを行い清潔保持に努めている。口腔内等に異状があれば、適宜歯科受診や往診が受けられるよう支援している。		
47	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者は全員トイレで排泄している。一人一人の排泄パターンを把握し、尿・便意が不確かな方にはタイミングを見て誘導している。また、本人と相談しながら紙パンツと布パンツを併用するなど、自立に向けた支援を行っている。		
48	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い料理や乳製品など工夫して提供しているほか、毎日ラジオ体操等を取り入れて適度に体を動かす機会を作り、便秘の予防に努めている。また、医師や看護師の指示のもと、状態に合わせて下剤を調整している。		
49	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に曜日など決まっておらず、希望があれば出来るだけその日に入れるよう支援している。入浴を嫌がる方には無理強いせず、気分が少しでも乗るような声掛け等を工夫している。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や日中の疲れ具合を見ながら、その時々で適度に休んで頂いている。夜眠れない方には、原因を見極め本来のリズムを取り戻し安眠できるよう支援している。		
51	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬剤情報はファイルしており、職員は必ず目を通して頂いている。利用者の日々の状態を観察し、変化があれば医師に相談し薬の調整等を行っている。		
52	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴から好きなことや出来ることを把握し、役割や楽しみが持てるよう支援に努めている。コロナの影響で限りはあるが、天気の良い日には近隣へのドライブで気分転換を図っている。		
53	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は利用者の希望に沿って買い物や喫茶店等に出かけていたが、コロナ禍の為ドライブ以外は支援出来ない。		
54	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば家族と相談し少額のお金を所持して頂いており、本人の安心にも繋がっている。		
55	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等からの電話はその都度繋いでおり、希望があれば本人からも電話が掛けられるよう支援している。		
56	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、写真を掲示したり季節に応じてベランダに花や植物を植えており、それを見たり世話をすることで会話のきっかけを作っている。フロアには加湿空気清浄器や床暖房、トイレや浴室にも暖房を設置しており、温度差に配慮しながら快適に過ごせるよう工夫している。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファや椅子が置いてあり、気の合った利用者同士で座ったり、その時々で一人になれる場がある。フロアで人気を感じながらソファで寝ることが好きな方もいて、それぞれが安心できる居場所となっている。		
58	(24)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、居室には出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂いている。家具以外にも仏壇を置いている方もいて、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		
59				○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には随所に手すりが設置してあり、状況に応じて掴まってもらうよう声を掛けている。一人一人の身体状況に合わせて、杖や歩行器、車椅子などを使用し、車椅子からの移乗がしやすいようベッドにはL字型の柵を適宜使用するなど、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		